

迷懷 源後新編

是の川流は、
かち思ふは、
こゆか、
其の先は、
是に位む、
思ひき、
尤も、
かゝる、
愛く、
浪の、
むれ、
いふ、



見し位む一七己れら
思ひきりまはれと見
たていえり世ふれさ
かむと礼身のうは
変く見ふまはけま
浪のこちわああけ
むれしき一見みと
いふと見なきら
考をのみなきに
おさむる袖えら
事よかとおとれ
ん人よあふみ
れ濱のうち
むまかきり
よてえり
まこよぬく
きしんと
花子

み瀧のうちしり行舟とし
もまじりしうちはいさば
よてえりまははらへことまの
まこよぬくかせまるとる志
きしんとまこせかしくえは
元子ま木し布のまあつ
さて袖も高本まのえりまの
原ませりつこ一首まよふ
にまこしとちのまのうへ
ふなかりてぬはまのみよ
れまのめまら雲の上まハ
かよのとま智まれとま心は
うしつ月のうつし木を
まねとらまの花のまま
なうらひまぬまのいぬ
せまにまま山つまあ
ふれま古まのまにま
はしつうつぬらまあ
まらま花のまのま

なうらひきぬよれいぬ
せきにまをれ山のよあ
ふれて古れまかめえに
はしとらうつぬらえれあ
さうろを花の枝に
つく後の世をいかに思
とを思ふをくわい
よてけのまらま
たれぬかのま身れ
まなく絶つるま
ふれたいつれ
まふりいま切ま
まれ光のはま
れしとへの利
つてはまら
すとをまよれ
ちしてまよれ
は

また光のほよきさし光
れしとよとへいそと利あらし
つて色よしとふりましく
すとまきまよゆ光こころを
ちしてまよゆく弱まよと
まよしまよきいとし冬り
れ乃おとあらし末の霞ふれ
と嵐さしよまきまよいまき
て光とまきつくやまきあて
むおとまよいつとまきあて
いんまよしよまきまよむ
まきあていあよあらしまて
なまゆ軍に位のえのまよ
まよまよしうまきまよつま
んまよせえていんまよま
あめせ中し又なよま
又能く浦とるゆまよ
れつしうまよまよまよめ

まがくばにたよあつるをて
なまぬ軍に位のえり地よ
あまのうしうはせ貝うつ志
んまらせえていふよ
あめ世中より又なよ
又能く浦にとはゆふ
ねつうよま絶るまめ
しよの巻の巻れつれく
といふつとまよつめて
あまの巻るまんと末の
のまえよまのつらま
れめつ身ふれとれ
うなまよままあま
うれいぬらせまま
あまみか
うまはうはまれ
まつまてし海の國
田のはらしくあ
あ

の多えよいまのつらき
れぬの身ふれと見え
うなまよし雲をたあや
うれぬらせふまえと見え
ゆきぞえみかしくり折柴
うきをたうほもれえくれ
よつきてし海の國は生
田のほろしくいふあは
うましく縄をうりて
うまぬ身をうむん

返哥

世の中えらまは身より
つらまぬまの思ふま
清れとえなまは利
まかり